

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分掌	係名	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK			今年度の課題と改善案 ACTION
				取組の成果	中間	期末	
総務部	防災・施設設備	<ul style="list-style-type: none"> 校内の環境整備を充実させることにより、校内の美化と安全管理を徹底する。 災害発生に備えるための体制を作ることにより、災害被害者を出さないようにする。□ 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃用具の整備や清掃指導を積極的にすすめて、校舎内外の環境を整備する。 危機管理マニュアルを刷新するなどして、災害時における避難体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画通りすすめることができた。 防災訓練を計画通り実施することができた。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 清掃用具を清潔な状態に保ち、清掃活動が滞りなく行えるようにする。 震災へ備える心の準備を生徒に促す。
	P T A	保護者との連携および協力体制を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事の案内を早めに行い、参加率を上げる。 各種委員会等で実行委員の意見をできる限り多く聞き、委員会活動に活かしていくことで、P T A活動全体の活性化をはかる。 	コロナのため中止となった委員会もあったが、おおむね実施できた。	A	A	生活指導委員会の活動や中止となった研修旅行について、来年度は実施できるよう内容を考える。
	同窓会	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会活動を活性化する。 同窓会報を発行する。 同窓会ホームページを運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校・生徒への援助事業を行う。 同窓生との連携・協力活動を円滑に行う。 資料館資料の管理・整備が適切に行う。 同窓会報編集計画を策定する。 同窓会HPの運営を適切に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため総会、支部総会等の活動がほとんどできなかった。 会報は10月に発行した。 ホームページ運営を適切に行うことができた。 	B	B	来年度は同窓会活動が以前のように行われると思われる。この3年間で活動が停滞したが、適切に行えるよう配慮したい。
	校友会誌	<ul style="list-style-type: none"> 校友会誌『樟樹』を発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部、クラスと連携し、内容を充実させる。 学校生活の記録としての役割を果たす。 	タブレットの活用により、効率的な作成を行うことができた。	B	B	来年度以降もICTを活用するなどして、生徒、教員の負担を軽減したい。個人情報保護等の観点から、内容の精選も行いたい。
	福利厚生	<ul style="list-style-type: none"> 職員の福利厚生を充実させる。 生徒の持ち物管理を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高生協の一括販売等の連絡、調整をする。 生徒の遺失物管理を徹底し、情報提供に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規加入がなかった。 保管ロッカーを目立つように工夫した。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 加入を強制することのないよう気を付ける。 持ち物を大切にすることを育みたい。
教務部	行事・広報	本校の教育方針の実現を目指して、学校行事の調整と充実を図る。また、ホームページ等で広報活動を適切な時期に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の実施にあたり目的や実施方法を確実に伝達することで、教育効果を高める。 学校行事の目的を明確にしたうえで精選と充実を図り、バランスの良い学校行事を実施する。 HPを利用して、広く情報を発信することで、広報活動に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌・各学年団・担任と相談を行いながら、授業と学校行事をバランスよく行うことができた。 HPを利用しての情報発信は行事予定に関しては毎月きちんと更新することができている。 	B	B	HPに関して、情報が過多の状態である。改善策として、関係の分掌と協力して、何の情報かどのページに掲載されているか、分かりやすく整頓する必要がある。
	教育課程	本校の教育方針に則った教育課程を編成し、確実に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 目標やミッションに合った教育課程の編成及び改善・実施を行うことで、本校の教育方針を実現する。 R4年度入学生の教育課程のスムーズな導入を図る。 シラバスを作成することで、生徒の主体的な学習を促す。 	各教科からの意見を取り入れながら、教育課程の見直しが行えている。R4年度入学生の評価については、学校全体で考え方を共有することができ、各教科で検討し実施できている。	B	A	R4年度入学生の評価について、適切な評価になるように引き続き検討していく必要がある。今後も大学入試等も考えて、変更点が出れば、柔軟に対応していく。
	時間割	教育課程の編成方針に沿いつつ、生徒の学習効果を高める狙いをもって、時間割を編成する。	教科のバランス、生徒の動きを考慮に入れて、生徒の学習効果の上がる時間割の編成、および日々の運用を行う。	時間講師の兼務や各教師の出張などの時間割変更を臨機応変に対応し、授業を確保できた。	B	A	時間割編成時の条件について見直し、年度中の変更が少なくなるようにする必要がある。

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分掌	係名	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK			今年度の課題と改善案 ACTION
				取組の成果	中間	期末	
教務部	奨学生	生徒・保護者への経済的支援を通して、生徒の学校生活の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を正確に把握し周知を適切に行うことで、生徒や保護者への学業・経済的支援を行う。 ・選考が必要な場合は、適切に選考資料を作成し、委員会による公正な選考を行う。 	案内等配布やHP掲載、メール等により保護者や卒業生への発信を行った。選考会は今後、数件の校内選考会を実施する予定である。	B	A	保護者へ繋げる周知の方法について、HPやメール等を活用することも検討したい。
	教科書	本校の教育方針実現を目的に適切な教科書の選定を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科への選定方針・基準の周知を徹底することで、各教科に共通理解に基づいた十分な検討を促す。 ・校内外の教科書選定委員会を開催し、様々な立場から意見をいただくことで、適切な教科書を選択する。 	新課程の教材選択においては、各教科主任との連携を密に取ることができた。各教科においても副教材の変更含め、よりよい教材の選択に向けて話し合いを進めていただいた。	A	A	教科書選定委員会の進め方について改善する。
	表簿	個々の生徒の記録を、諸表簿等に適切に残す。	<ul style="list-style-type: none"> ・各表簿への記入方法等を周知することで、個々の生徒の記録を適切に行う。 ・表簿の種類に応じて、月末、学期末、年度末に確実な点検を行う。 ・校務支援システムへの入力・確認を正確に行うことで、個々の生徒の記録を的確に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ関係の書き方等で混乱が生じたことがあったので、再度、周知しておきたい。 	B	B	コロナ関係等で書き方等再度確認し、周知したい。
	教育実習	教職を志す卒業生に対して、授業実践等を通して必要な資質・能力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習希望者に対して、心構えや受け入れ条件等を丁寧に説明することで、事前準備を促す。 ・希望者との面接結果などを基に資料を準備することで、適正な選考を行う。 ・教育実習生に対して、実習期間中の指導を十分に行うことで、教員として必要な資質を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者が多かったため、受け入れられないこともあることを前提に、丁寧に説明できた。 ・来年度の実習生とはオンラインでの面接を実施し、選考を行うことができた。 ・予定通り実習を行うことができた。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の募集時期をHPに掲載する。
	情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台パソコン等の運用を適切に行う。 ・データの保守と円滑な活用を図る。 ・校務支援システムの使用方法の変更に伴うマニュアルの作成、および周知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・係内での円滑な引継を行い、校内のパソコンとネットワーク環境を整備・マニュアル化することで、適切な運用を実現する。 ・サーバの保守やデータの計画的なバックアップを行うことで、データの安全・確実な管理を行う。 ・校務支援システムの適切な使用により、教員の業務の円滑化と負担軽減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新課程における、成績一覧表や個人表の設定に少し手間取ったが、おおむねうまくいった。 ・マニュアルの作成に移れていない業務もある。 ・データのバックアップは適切に行っていた。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新課程における校務支援システムのマニュアルの作成と改訂を行っていく。

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分掌	係名	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK			今年度の課題と改善案 ACTION
				取組の成果	中間	期末	
教育 研究部	学習指導	生徒に主体的・自主的学習を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝学習・読書を計画的に実施することで、生徒の自主的学習を促す。 ・スタディバディを生徒に持たせることで、家庭学習を促し、自律的学習習慣の確立を図る。 ・土曜学習会を、年間5回、定期考査直前の土曜日に実施することで生徒の学習への取り組みを促す。 ・ICT機器を使った学習方法を研究し、生徒の学習指導に活かす。 	早朝学習・読書、スタディバディ、土曜学習会などはシステムとして定着している。ICT機器に関しては、活用方法を周知し、徐々にではあるが活用が進んでいる。	B	A	本年度、臨時休業等の不測の事態はなかったが、 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育係と連携して遠隔教育の体制 ・学習課題（宿題）の指示体制 ・課題に取り組む際、生徒からの質問を受けられる体制を整備することが課題である。
	総合探究	<ul style="list-style-type: none"> ・探究を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。（2年文系） ・探究を通して、生徒一人ひとりを大切にしながら進路指導を行う。（3年） ・研究実践成果の普及を行う。 ※SSHに係る教育課程の特例により、1年生、2年理系の「総合的な探究の時間」は実施しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・「文系課題探究」の授業、教材、評価手法の研究実践を行うことで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。（2年文系） ・論文作成指導教材を作成し、進路指導に十分な時間を確保することで、適切な進路選択ができるようにする。（3年） ・研究成果をウェブサイトや探究発表会の公表、県教委主催の研究会における香川型教育メソッド作成への協力を通して、成果の普及を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「文系課題探究」の授業、教材、評価手法の研究実践を行うことで、思考力・判断力・表現力を育成できた。（2年文系） ・論文作成指導教材を作成し、進路指導に十分な時間を確保することができ、適切な進路選択を促すことができた。（3年） ・成果の普及を行うことができた。 	A	A	取組みを継続し、成功事例を蓄積する。
	国際教育	国際交流の機会を生徒に提供し積極的な参加を促し、国際理解への興味・関心を高め、国際感覚を養い国際社会に貢献できる人間の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解のための日本語弁論大会や英語スピーチコンテスト、国際交流行事等への積極的な参加を促すことにより、国際理解を高め国際感覚を養う。 ・長期交換留学生との交流を授業や部活動の中で進めることにより、国際理解を深める。 	新型コロナウイルスのために留学プログラムが休止してしまっただけで、例年の活動とはならなかったが、スピーチの紹介や校内での行事を行うことができた。	B	B	スピーチコンテストに参加した生徒たちだけでなく、ほかの生徒へも披露会などで国際理解や英語への関心をもつきっかけを与えられた。来年度からは留学制度も再開されるものもあるので様々な機会を提供したい。
	現職教育	教員の指導力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を実施することで、各教科内での授業力向上に向けた取り組みを強化する。 ・相互授業参観週間を見直し、教科の枠を超えて気軽に授業参観をすることで、授業力の向上を図る。 ・授業アンケートを有効に利用する。 ・ICT教育係と協力して、タブレット等の利用に関する現職教育を実施することで、ICT機器を使った指導力の向上を図る。 	授業アンケートについてはFORMSによる実施を検討している。	B	A	公開授業研究会の実施によって、自分の授業を振り返り検討する機会ができた。ICT利用事例集の報告のために事例を収集することで知られていない実践を知ることができた。これらの優れた実践を教師全員で共有することが課題である。
	ICT教育	ICT機器に関して、使用環境の整備と普及を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・現職教育や相互授業週間においてICT機器の活用例を紹介することにより、授業でのICT機器の活用を促進する。 ・副教材としてWeb教材の研究・周知を行うことにより、生徒の学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主的にタブレットPCを使用する頻度が増えた。 ・現職教育を実施し、ICT機器使用の活用例を紹介することができた。 ・一部の教科において教材のデジタル化に着手することができた。 	B	A	校内のタブレットPCが増えることとなり、利用手順などのルール改定が急務となっている。使いやすい環境整備をめざし不断の検討が課題である。

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分掌	係名	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK		今年度の課題と改善案 ACTION	
				取組の成果	中間 期末		
教育 研究 部	図 書 館	図書館の利用者数を増やし、生徒の読書活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会による「図書かわら版」の発行などを行い、生徒の読書活動を促す。また、「図書館だより」も発行する。 ・各教科との連携を図り、利用を呼びかけることで、図書館の利用者数を増やす。 ・生徒の意見を取り入れ、要望に配慮した書籍の購入を行うことで生徒の読書意欲を向上させる。 	毎月の「図書かわら版」の発行はカラー印刷や内容の充実含め、生徒の協力もありよりよいものになっている。生徒の意見を取り入れ、要望に配慮した書籍の購入も行うことができた。校内の各地におすすめの本という形で紹介文を掲示したのも非常によかった。	B	A	新入生に対してオリエンテーションを充実するなど、図書室への訪問数を増やすための方策を考え実行したい。
		生活指導 あいさつなどの礼節や、社会人としてのマナーやエチケットを身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時、職員室や準備室等の入・退室時の挨拶やマナーの徹底することで、挨拶などの礼節を身に付けさせる。 ・集会時等に生徒指導講話を行うことで、社会人としての自覚や日常的なマナーやエチケットを身に付けさせる。 	TPOに応じた適切な言動について日常の場面をとらえて指導し、改善している。	B	B	今後も継続して、機会を捉えた指導を行っていき、状況に応じて適切な行動、マナー、言葉づかいなどについて生徒が「考えて」実践できるように仕掛けていく。
		社会人として服装のマナーやエチケットを学ばせる。	毎月、服装指導期間を設け、各クラスでの服装指導を実施することにより、服装整備を徹底するとともに、適切な身だしなみについて考える。	服装指導、日常的な声かけにより、生徒がそれぞれに自分の身だしなみを整えている。	B	B	今後も継続して、機会を捉えた指導を行う。
		生活指導 積極的な清掃活動の徹底させることで、清掃習慣のみならず、公共心や基本的な生活習慣を身につけさせる。	積極的に清掃を行えるように配置・分担等を具体的に指導し、終業後5分以内に取られるように指導する。	熱心に清掃を行っている。取り掛かりもスムーズになっている。	B	B	総務部とも連携し、更に意欲的な清掃活動が実践できるよう、区分や人員配置についても工夫していく。
生徒 指導 部	生活指導 情報社会を生きる上での規範意識をもたせ、安全で安心な高校生活を送れるようにする。	携帯電話等の校内持ち込み許可の申請を踏まえ、SNSの利用等における情報モラルや情報セキュリティの指導を行うことで、安全に安心な情報活用が行えるようにする。	全体での講話、1年生への情報モラル教育等で、規範意識を高めることができた。2年生は修学旅行前の事前指導、3年生は18歳成人・主権者教育の際に情報モラルについても考えることができた。	B	B	学年や全体への指導に加え、職員内でも職員会議や現職教育で情報モラル教育の重要性について共通認識を持ち、HRや授業においても機会を生かして、生徒たちが情報社会を生きる上での規範意識を向上させていきたい。	
		交通安全教育を徹底することで、命の大切さを自覚するとともに公共の精神を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・校外交通指導を計画し、警察と協力して毎月実施する。 ・自転車の安全点検を実施し、車体整備を徹底する。 ・自転車運転免許講習や警察より講師を招いての交通安全教室を行い、命の大切さや交通ルールの遵守について指導する。 	朝の立哨、交通委員の呼びかけ等で、交通安全意識を向上させることができた。	B	B	生徒ひとりひとりの交通安全の当事者としての意識を高めるために、継続して職員・生徒で啓発に取り組んでいく。

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分掌	係名	ねらい	具体的な取組とねらい	評価 CHECK		今年度の課題と改善案	
		PLAN	DO	取組の成果	中間	期末	ACTION
保健衛生部		生徒が自分の健康情報を早期把握することで、自ら健康に生活できる態度を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断や各種保健調査を確実に実施し、その結果を必要な範囲内で共有し活用する。 健康診断により、受診が必要とされた生徒に対しての呼びかけをおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部のクラスで学級閉鎖のため眼科検診を一月遅れで実施することとなったが、予定の検診を全て実施した。 健康診断の結果、受診が必要な生徒への連絡、指導を適切に行っている。 	A	A	受診率の低い項目については、さらに個々への受診勧告を行い、早期の治療を勧めたい。
		感染症対策に努めることで、自ら感染を防いだり、感染症の蔓延を防ぐ態度を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防のための様々な環境衛生管理や広報活動を行う。 各種感染症情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な感染症対策は習慣化されるようになってきている。 感染予防を強化するために、消毒用のペーパータオルを購入し、毎日の消毒を呼びかけた。 	B	B	HR教室の換気、消毒薬の設置など環境面の整備は適切に行えたが、それらを使用する生徒の意識に個人差がみられるので指導していきたい。
		教職員の保健衛生に関する研修の機会を設けることで、自らの健康を改善する能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 職員に対して心肺蘇生法の研修の会を開く。 時季に応じた健康情報を発信する（熱中症、インフルエンザなど）。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月3日午後心肺蘇生法の研修を行った。日赤から3名指導者の方を招き、心肺蘇生法(AED講習含む)及び負傷者の運搬方法について学び、実践力を養った。 	A	A	心肺蘇生法の研修は毎年実施していきたい。健康の保持増進のための研修を年に一度は実施していきたい。
進路指導部		生徒が高い目標を持ち、その目標を維持し、実現できる体制をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> HRや説明会、「進路の手引」「進路だより」の発行等を通して、生徒・保護者に対し、適切な時期に、適切な内容の進路情報を提供する。 3年生の学力やそれまでの活動実績および適性を判断し、一人一人に適する受験形態をとれるよう指導体制を整える。 全教員が最新の入試情報を得られる機会を設け、生徒への的確な進路指導ができるスキル向上を目指す。 	HR、説明会、「進路の手引」の発行等を通して、生徒・保護者に対し、適切な時期に、適切な内容の進路情報を提供できた。	B	B	HRや保護者を招いて行う説明会においては十分な情報を提供できているようだが、「進路だより」などの定期的な情報提供を今後充実させる必要性を感じる。
		生徒の状況を的確にとらえ、教職員間で情報を共有し、適切な学習指導を行えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 学習検討会や職員会議で、校内・校外模試の分析結果を教員間で共有することで、教員が共通理解に基づいた学習指導を行えるようサポートする。 校外模試の生徒の解答の分析結果を、教科内で共有することで、授業、定期考査・校内実力テスト模試の作成、個別指導に反映できるようにする。 全教員が自教科のみならず、他教科を含めた入試問題に関する知識を身につける機会を増やし、生徒への的確な学習アドバイスができるスキル向上を目指す。 	学習検討会や職員会議で、校内・校外模試の分析結果を教員間で共有し、教員の共通理解を促せた。	B	B	校内においての検討会や分析会は、これ以上回数を増加させる必要はないが、実施内容をさらに充実させるための検討を行いたい。

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分掌	係名	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK			今年度の課題と改善案 ACTION
				取組の成果	中間	期末	
特別活動部	ボランティア	ボランティア活動の運営と企画を行い、生徒の地域社会への主体的な関わりを促すことによって、奉仕の精神と行動力を備えた人材を育成する。	・介護老人福祉施設を訪問し体験活動をする。（1年） ・各種ボランティアの募集を広く周知し、積極的な参加を呼びかける。 ・学校周辺の清掃を行い、住んでいる地域における美化意識の向上を図る。	介護老人福祉施設の訪問は中止となったが、その他のボランティアは少しずつ開催されるようになり、生徒は意欲的に参加し、地域に貢献した。	B	B	さらに意欲的に参加できるよう、意義を伝えるなど、呼びかけの仕方を工夫する。
	生徒会	・体育祭や加藤杯大会等の運営を通して、生徒の主体性や協調性、協働性を育成する。 ・クラスの団結力を高める。	・生徒会役員や加藤杯委員などが中心となって体育祭や加藤杯大会などの運営を行うことで、生徒の主体性や協調性、協働性を高める。 ・練習や応援を通じて、各クラスの団結力を高める。	体育祭は中止となったが、準備や加藤杯大会を通じて、生徒の主体性や協調性、協働性、各クラスの団結力を高めることができた。	B	B	さまざまな規制が緩和されていく中でも適切な感染症対策に留意しながら、生徒が主体的に企画・運営に関与できるようにしていきたい。
	生徒会	観一祭の企画・運営を通して、 ・生徒の自主性や協働性を育成する。 ・クラスの団結力の増進を図る。	・観一祭委員などが中心となって観一祭の企画・運営を行うことで、生徒の主体性・協働性を高める。 ・各クラスに、テーマに沿った出し物を工夫させることで、クラスの団結力を高める。 ・学芸部の活動成果の発表の場をつくることで、活動をより一層充実させる。	3年ぶりに保護者や中学生を迎えて観一祭を開催することができ、各クラスの観一祭委員などが中心となって、企画・運営を行うことができた。 学芸部の活動成果を披露することができた。	A	A	観一祭の内容やルールづくりについて、学校行事の目的も踏まえつつ、生徒会役員を中心に生徒とともに考えていきたい。
	HR	進路実現、心豊かでたくましい心身の育成、人間尊重の精神及び公共の精神の涵養と規律ある生活習慣の確立を図る。	進路指導部、特別活動部、人権・同和教育部、生徒指導部、各学年団等と連携して、計画的・効果的にLHRを計画・実施することで、ホームルームや学校生活の充実と向上を図る。	各分掌や学年団との連携を取り、適宜計画を変更しながらLHRを実施することができた。	B	B	年間のバランスを考慮し、3年生のスケジュールを改善したい。
	家庭クラブ	校内外における研究やボランティア活動を通して、クラブ員（全生徒）の家庭生活の向上を図る。	・ホームプロジェクトや家庭クラブ週間の活動を通して、クラブ員全員が各自の家庭生活の向上に生かせるように努める。 ・家庭クラブ委員を核とし、観一祭や機関誌を通して広報に努めることにより、クラブ員全体の意識を高める。	・ホームプロジェクトや家庭クラブ週間の活動を通して、クラブ員全員が各自の家庭生活の向上に生かせるように努める。 ・家庭クラブ委員を核とし、観一祭や機関誌を通して広報に努めることにより、クラブ員全体の意識を高める。	B	A	観一祭等での、交流の場をもっと増やしていきたい。
	芸術鑑賞	生徒が普段触れる機会の少ない芸術公演を鑑賞させることにより、芸術文化への理解と愛好する心情を育てる。	・紙工劇落語を鑑賞する。 ・鑑賞マナーを守る。 ・興味関心を持って楽しむ。	・コロナ禍で劇場に足を運ぶ機会が減っている中、情操教育を行うことができた。 ・生徒たちは熱心に鑑賞した。	A	A	コロナ禍でも心を豊かにできる芸術・文化に親しむ機会を確保したい。

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分掌	係名	ねらい	具体的な取組とねらい	評価 CHECK			今年度の課題と改善案
		PLAN	DO	取組の成果	中間	期末	ACTION
人権・同和教育部		人権課題に対する生徒の理解を深め、人権意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・同和教育LHRの内容、実施方法をより効果的なものにする事で、生徒の人権課題に対する理解を深める。 ・LHR終了後、「人権・同和教育だより」を発行することで、生徒に学んだことの振りかえりをさせるとともに、人権課題に対する互いの意識を共有する。 ・大島青松園フィールドワークを行い、3学期の人権・同和教育HRをより実践的なものとする。 	大島青松園フィールドワーク参加生徒を核として、3学期の人権・同和教育LHRを構築することができた。	B	A	感染状況にもよるが、次年度は大島青松園フィールドワークができる状況かどうかを見極めて、実施できるよう最善を尽くしたい。
		職員の啓発や人権意識の向上をめざす。	現地研修などの現職教育を行うことで、職員の啓発と人権意識の向上を図る。	職員会議に合わせてミニ現職教育を実施した。	B	B	校内現職教育の一層の充実を図りたい。
		保護者の理解を深めるとともに、啓発をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会等での現況報告を通じて、保護者の理解を深め、家庭の協力を求める。 ・「人権・同和教育だより」を発行することで、学校の人権・同和教育の学習内容への保護者の理解を深める。 ・四人研香川大会への参加を呼びかけ、学びを共有することで、保護者への啓発活動を行う。 	PTA役員会の場やPTA新聞発行を通じて、啓発することができた。四人研香川大会は紙上開催となった。	B	B	残念ながら四人研香川大会は紙上開催に、また全同教大会は参加者を絞っての開催となってしまったが、香同教大会、部落解放講演会、指導者研修会は保護者の参加も得て通常規模で実施することができた。
人権・同和教育部		中学校との校種間の連携を図る。	中高連絡会にて研究協議をすることで、中学校との連携を深め、より効果的な人権・同和教育の実践をめざす。	地元中学校での授業参観と研究協議を通じて、中高間での人権・同和教育の現状と課題を共有した。	B	B	次年度は高校での開催となるので、関係校間での連携を密にして、一層の情報共有をめざしたい。
		関係機関との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の隣保館等との連携を密にすることで、関係を深める。 ・第4ブロック会などで他校の主任との情報の共有を行うことで、連携・協力を深める。 	各地区文化祭は制限下での実施となったが、可能な限り参加することができた。	B	B	先生方にも文化祭参加を促すことができたが、管理職の先生方の参加に留まっている。先生方の参加を少しずつでも増やすことを考えたい。
教育相談部		生徒の出すサインに早めに気づき、早期に対応できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前アンケートや学期始めの調査、欠席欠課状況、授業担当者の観察情報などから、早めに心配な生徒には声をかけ、生徒の困っていることを教職員で話し合えるようにする。 ・スクールカウンセラーを交えて毎月1回程度部会を持ち、専門家の助言を得て、問題に対して一貫性のある適切な対応を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に入りにくい生徒のために一時的に別室が利用できるようにルールを作った。これにより、別室を利用したい生徒に対し ・入学前アンケートや4月の健康調査を実施し、多少は教職員が生徒を理解する手立てになる情報を共有するできた。 ・スクールカウンセラーを交えて部会を年数回開き、気になる生徒の情報交換及び対応について話し合った。 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任や副担任・部活動の顧問など生徒に関わる職員と教育相談部の連携が十分にとれていなかった。今後は、生徒がどのようなことで悩んでいて、どうすれば生徒を支援することができるかを学級担任・副担任・部活動の顧問などと教育相談部職員で共通理解を図るようにしたい。 ・問題が深刻化する前にスクールカウンセラーとも連携して関係職員の力を合わせて生徒に対応できるようにしたい。
		生徒が安心して豊かな学校生活を送れるように教職員がチームでサポートする。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、生徒にとって必要な支援を検討する。 ・ケース会や教科担当者会を開き、共通認識のもとで支援を行う。 				

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分掌	係名	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK		今年度の課題と改善案 ACTION	
				取組の成果	中間 期末		
SSH推進部	研究評価WG	<ul style="list-style-type: none"> ・独創的・科学的探究力を育成する。 ・個別最適な外部連携の推進。 ・実践成果の普及を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「科学探究基礎α」「科学探究基礎β」「科学探究Ⅰ」「科学探究Ⅱ」「課題探究」を行うことで、独創的・科学的探究力や課題研究に必要な技能を修得させる。 ・個別最適な外部連携を推進する。 ・研究成果をウェブサイトやSSH研究開発成果報告会で公表することで、成果の普及を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな学校設定科目「科学探究基礎β」を開講し、教室をオンラインでつなぐ新たな取組も順調にスタートできた。 ・個別連携は個人差やグループ差がある。 ・ウェブサイトのほか、県の教育メソッド作成協力や、県外訪問視察の受け入れ、学術誌寄稿、学会発表等情報発信ができた。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・評価テストや成果物のループリック評価の結果を蓄積し、次年度に比較して分析する。 ・個別最適な連携のリストを係で作成、運用する。
	国際性育成WG	<ul style="list-style-type: none"> ・国際性を育成する。 ・実践成果の普及を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外科学体験研修（米国）及びその事前、事後指導における各種プログラム（SS英語、サイエンスダイアログ、英会話教室、英語による課題研究発表等）、並びにコロナ禍により中止を伴う場合における代替プログラム等を行うことで、英語運用能力を高めるとともに、国際性を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブミーティングアプリを活用して事前指導、事後指導を含めて、海外研修onlineを実施することができた。 ・英語による論文抄録の指導を行い、論文誌を発行することができた。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の現地訪問実施に向けた準備を行う。
	高大・地域連携WG	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションマインドを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH講演会、サイエンスレクチャー、企業訪問、大学訪問、大学研究室体験、東京方面科学体験研修、自然体験合宿、TDI、FESTAT、課題研究等を行うことで、科学研究への興味・関心を高めるとともに、科学研究者としての高い志を持たせる。 ・SSH通信の発行やHPへの掲載により、その成果の普及・広報を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動制限も緩和され、前半期の全ての行事を実施でき、期待通りの成果を得た。 ・HPへの掲載により、その成果の普及・広報を行うことができた。SSH通信は未発行。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の打ち合わせを行う。 ・SSH通信を発行する。
	SSH事務	<ul style="list-style-type: none"> ・予算執行および購入物の管理を適正に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH事業計画書に基づいて、要求書、事業経費説明書及びそれらにかかる付随資料の作成することで、予算執行及び物品購入を遅滞なく正確に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH事業計画書に基づいて、要求書、事業経費説明書及びそれらにかかる付随資料の作成することで、予算執行及び物品購入を遅滞なく正確に行うことができた。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な予算管理を引き続き実施する。